

鹿沼市立川上澄生美術館・北中学校

市立美術館と近隣中学校との連携**～美術鑑賞教室を通じた学校教育との連携の試み～****連携の経緯**

川上澄生美術館は「木版画の詩人」川上澄生の教え子でもあった、鹿沼市出身の長谷川勝三郎氏（1912～2001）からの約2,000点の作品提供により、1992年（平成4）に開館した。鹿沼市の旧市内を流れる黒川沿いに位置し、近隣には小学校や中学校が点在している。開館当初は全国的なPRを展開したが、その後知名度もアップし、地元に対してどのようなサービスを還元できるかを模索する中、学校教育との連携に着目し、平成16年度より市内の小・中学校に出向き木版画教室を実施するようになった。平成23年度からは、近隣の北中学校からの要請に応える形で、鑑賞教室を実施している。

**連携事例**

北中学校の美術の授業において、美術館の学芸員が作品の鑑賞方法をアドバイスしている。もともとは、北中学校の美術担当の教諭が、近接する川上澄生美術館へ相談したことから始まった。当初は学芸員と中学校の教諭が打合せをしたうえで、美術館所蔵の作品の中から適当な現代版画5～6作品を選んで持参し、学校で授業を行った。2回目からは、隣接している利点を生かし、美術の授業時間中に北中学校の生徒が直接美術館を訪れて鑑賞教室を行っている。

連携の形態

中学校の授業に、ゲストティーチャーとして美術館の学芸員が参加する。

**成果と課題**

- ・実際に、美術館に出向いて授業が行えるので、美術館から作品を持参する場合に比べて多くの作品を鑑賞することができる。
- ・この試みは緒に就いたばかりであるので、今後いかに継続させられるか、また、他の近隣校に波及させられるかが課題である。

その他

小・中学校の夏休み期間中には美術館に隣接する文化活動交流館の創作工房室を会場に、小・中学生向けの版画教室を開催するとともに、同期間中は市内の児童・生徒を対象に同館を無料で開放している。近隣の東小学校、東中学校、北中学校をはじめとする多くの小・中学生で賑わいをみせている。

二宮尊徳資料館・真岡市歴史資料保存館

二宮尊徳資料館、歴史資料保存館と学校との連携 ～郷土の歴史に親しみ、郷土愛を育む連携の実際～

真岡市二宮尊徳資料館・真岡市歴史資料保存館

真岡市は、江戸時代後期に二宮尊徳が仕法を行い、疲弊した農村を見事に復興させた地として有名である。二宮尊徳資料館は、真岡市物部地区にある二宮尊徳ゆかりの国指定史跡「桜町陣屋跡」に隣接し、尊徳の遺品等ゆかりの品々や尊徳の業績についての説明展示、映像による尊徳の紹介等を行っている。また、同地区内の旧物部小学校高田分校跡には、古い農具、民具などの民俗資料が保管・展示され、見学や体験ができる真岡市歴史資料保存館が設置されている。



〈二宮尊徳資料館〉

以下の事例は、近隣校に限った内容だけではないが、教育委員会が中心となって学校に施設の利用を積極的に促進している点、及び学校の利用に際し、地域のボランティアによる活動支援が行われている点等において、学校と施設のよりよい連携を図るための参考になるものとして掲載する。

連携事例

真岡市教育委員会では、同教育委員会が中心となって作成した小学生用社会科副読本「私たちの真岡市」に取り上げられている学習内容との関連から、市内の小学校に社会科見学等で両館の利用を促進している。また、両館とも地域のボランティアや嘱託職員による施設案内や学習支援の充実を図っている。

〈小学校の社会科の学習を中心とした施設との連携〉

社会科副読本「私たちの真岡市」には、小学3年生の学習内容に「古い道具と昔の暮らし」が取り上げられている。実際に使用されていた道具（農具や民具）にふれる機会として、真岡市歴史資料保存館への社会科見学を実施している。ここでは、ボランティア（二宮郷土史同好会のメンバー）による農具や民具の使い方等の説明や実際に展示物を使った体験学習が行われている。



〈真岡市歴史資料保存館〉

同じく小学4年生の学習内容「真岡の発てんにつくした人々」には「二宮尊徳」が取り上げられている。二宮尊徳資料館では、

嘱託職員による館内展示資料及び桜町陣屋跡説明・案内等の学習支援を行っている。

<社会科及び総合的な学習の時間での調べ学習への対応>

二宮尊徳資料館は休館日を除き随時開館、利用料も無料であり、近隣の小学生を中心に、資料や展示物の閲覧や解説等による支援を行っている。

連携の形態

主として学校行事等で実施されている社会科見学の実施とその協力、及び両館の利用促進という形での連携が行われている。

窓口は、学校側は学年主任等の企画担当者、歴史資料保存館は真岡市教育委員会文化課文化財係、二宮尊徳資料館は当直の嘱託職員または真岡市教育委員会文化課文化財係が担当している。利用時の展示物の説明や資料の提供等を、二宮尊徳資料館では嘱託職員が、歴史資料保存館では地域のボランティア団体（二宮郷土史同好会メンバー）が行っている。



<二宮尊徳資料館展示品（リーフレットより）>

成果と課題

- 市では各校にバスを割り当て、両館の利用に当たっての援助を行っているが、時間や天候により、予定された学習内容に影響が出るケースも否めない。その点近隣校は徒歩で来館できる距離であり、学校側の都合や天候等にも合わせて利用することができる利点がある。また、二宮尊徳資料館は総合的な学習の時間や社会科等の調べ学習にも利用でき、放課後等に来館する近隣校の児童が増えている。
- 二宮尊徳資料館は桜町陣屋跡に隣接しており、ここを訪れることは、児童にとって地域の歴史にふれるよい機会となっている。また、展示資料を自分の家から提供したという児童もあり、地域の施設としての親しみや地域の歴史への関心を高めることにつながっている。
- 教科の学習内容に関連して、利用は小学校3,4年生が主であるが、それ以外の学年にも利用を拡大していきたいと考えている。そのために、学校や市民に向けて、両館の広報の強化を図っていく必要性を感じている。また、教員対象の研修等により、両館の理解及び利用の工夫等についての認識を深めることも効果的であると思われる。
- 現在、歴史資料保存館には当直の職員が配置されておらず、利用希望を受けたときに市教育委員会が開錠している。また、両館とも事前の打合せは、日程の調整が主であり、学習への支援はほぼ決まった形となっている。学習の充実を図るため、効果的な学習形態や学習方法等について助言できる専門職員（学芸員等）の配置が望ましいが、人材の確保、人件費等の問題がある。

小山市立豊田公民館・豊田北小学校・豊田南小学校・豊田中学校

豊田公民館と近隣小・中学校との連携

～ふれあい楽習他の事例をとおして～

連携の経緯

小山市において、学校週5日制に社会教育関係機関（公民館）としてどう対応していけるか、青少年に対する生涯学習の機会の提供はいかにあるべきか検討し、平成12年から豊田公民館における「ふれあい楽習」が始まった。平成25年度で、12年目になるが、「地域と学校をつなぐ」視点から「ふれあい楽習」は継続して行われている。

連携の窓口

豊田公民館の窓口は、社会教育指導員が担当している。歴代の社会教育指導員は、地域や学校をよく把握している近隣小学校の校長退職者や近隣中学校勤務経験者である。学校の窓口は、教頭や教務主任である。年度初めには、公民館担当者が学校へ出向き直接顔を合わせて、情報の共有を行いながら、事業の説明や協力依頼をしている。

連携事例

1 「ふれあい楽習」の趣旨

学校ではなかなか体験できない活動を体験する（「地域を知り・地域にふれる」）、子どもたちが未来を担うのにふさわしい（「地域を語れる」）大人に育てて欲しいという願いを込めて実施している。

<子ども陶芸教室>

小学校4年生以上を対象にした教室と中学生を対象にした教室をそれぞれ実施している。中学生は、手芸工芸部の部員が積極的に参加している。各5回の教室の中で、間の3回は小・中合同開催のため、異校種間交流の場となっている。講師は地元在住の陶芸家をお願いしている。作った作品は、公民館祭りで展示し、地域の人に見ていただき好評を得ている。



<親子天体教室>

小山市立博物館の「ほっしー号」・天文教室ボランティアの協力を得て、豊田中を会場に実施している。対象は、豊田地区内幼稚園児・小学生・中学生、保護者である。



<家庭教育学級・思春期講座>

2校の小学校では、毎年家庭教育学級を実施している。中学校では、家庭教育学級と思春期講座を隔年で実施している。テーマや講師は、公民館と学校とで毎回相談して決めている。会場は各学校で、計画・運営等は公民館が担っている。



2 標語募集（地域安全活動連絡協議会主催）

地区内の4年生以上の全小・中学生が、標語を作り応募している。また、近隣の小山西高校や地域住民からも募集（自由応募）している。募集や審査などで近隣小・中学校の協力を得ており、最優秀作品は立て看板にして、学校や思川駅、公民館に掲示している。

3 豊田地区小・中学生絵画展

平成25年度で28回目を迎え、三世代に繋がる豊田地区ならではの絵画展である。各小・中学校から作品の応募と教職員の審査員の協力を得ている。公民館を拠点に活動する油絵サークル「イーゼル」の会員の作品も一緒に展示している。「イーゼル」の作品は、中学校の文化祭にも出品展示している。



4 豊田地区芸能交換会

芸能が盛んな豊田地区で行われている「豊田地区芸能交換会」は、平成25年度で36回目を迎える。豊田公民館を中心に活動するサークルのメンバーが出場するが、こうした地域の行事が中学校の講堂を会場に行われている。学校が地域の方々が集う場となっている。

募集チラシなどの配布物は、各学年やクラスごとに仕分けをして依頼し、教職員の負担のないように心がけている。また、お金のかかる事業の申込みは直接公民館で集めるようにしている。依頼だけでなく、事業実施後には必ず結果の報告をしている。

成果と課題

- 公民館と学校が近隣にあり、直接会って話ができるので、情報の共有が円滑に行える。
- 互いの施設や備品の貸し借りが容易であり、人的協力も互いによく行えている。
- 親子を対象にした講座の実施や公民館に子どもの作品を展示することで、日頃、公民館に来たことのない大人にも、公民館を知ってもらうことができた。
- 円滑な連携の結果、地域文化の掘り起こしが可能になり、地域に元気が出てきた。
→「新編豊田音頭」歌詞を62年ぶりにリニューアルし、DVD化した。
- 今あるよさを継続していくための繋ぎ手（後継者）の確保。
- 学校や公民館の担当者が人事異動等により変わっても、これまで積み上げてきたことが継承されるようにすること。

矢板市立図書館・矢板中学校

矢板市立図書館と近隣中学校との連携**～矢板市学校図書館等職員協議会を核とした取組について～****矢板市学校図書館等職員協議会**

矢板市立図書館は指定管理者制度を導入し、2008年4月1日から指定管理となった。

小・中学校の利用を増やし、図書館からも積極的に学校に働きかけていくためには、学校図書館司書教諭や図書事務員などを通して、学校との関わりを深めていく必要がある。そのためには学校教育課との連携が不可欠であると考え、矢板市立図書館館長と担当者を中心に、生涯学習課長と担当者、学校教育課担当者、各小・中学校図書館司書教諭及び司書補助員（図書事務員）で構成される「矢板市学校図書館等職員協議会」を平成24年4月に立ち上げ、図書館と学校相互の連携及び協力を強化していくこととした。

**連携事例**

図書館の近隣校である矢板市立矢板中学校は、積極的に図書館を利用している学校の一つである。図書館の担当者と、中学校の学校図書館司書教諭が窓口として、連絡を取りながら活動を進めている。

- 1 年に2回（5月と2月）開催される「矢板市学校図書館等職員協議会」に学校図書館司書教諭が参加している。
 - 【5月】図書館の事業計画の説明、学校での読書活動にかかわる取組の説明
 - 【2月】学校における読書活動にかかわる取組の結果（進捗状況等）報告、図書館の次年度の事業計画の説明
- 2 図書館主催の図書館専任講師による研修会（25年度から）に、司書教諭や図書事務員が参加している。
 - 【6月】児童図書の選書と企画展示の状況
 - 【10月】ブックコート及び修理の仕方
- 3 学校で積極的に図書館の本を借りるように、図書館で購入する本の選定に、司書教諭や図書事務員が関わっている。
- 4 総合的な学習の時間の調べ学習を、図書館で書物やパソコンを使って行っている。今年度も、86名の生徒が参加した。
- 5 図書館から司書教諭有資格者を派遣し、図書事務員の補助、ブックコートの補助、図書購入助成金の相談、情報交換等を行っている。
- 6 図書館の館長や担当者が学校に出向き、校長や図書事務員、学校図書館司書教諭に要望等を直接聞くなどの聞き取り調査を行っている。

成果と課題

- ・図書館が、学校図書館司書教諭や図書事務員と情報交換等をしやすい関係を築くことができ、密に情報交換が行えるようになった。
- ・学校の団体貸出の本の冊数が増えた。
- ・図書館の取組が、学校に徐々に浸透してきている。
- ・図書事務員対応の研修は少ないので、図書館主催の研修をもっと増やしていきたい。

那須塩原市厚崎公民館・那須塩原市立埼玉小学校・共英小学校・厚崎中学校
「学社連携・融合事業」を進めた厚崎公民館の取組

連携の経緯

「学社連携・融合事業」は、平成9年頃より黒磯地区の7公民館で取り組まれてきた。平成17年の黒磯市、塩原町、西那須野町の合併により那須塩原市となり、現在は、那須塩原市内の15公民館において取り組んでいる。現在、3つの公民館で『学社連携・融合推進会議』を年に1～2回実施している。その1つが、那須塩原市厚崎公民館である。

連携事例

1 「厚崎地区学社連携・融合推進会議」

会議の中心は、公民館・学校関係・自治公民館団体等の情報交換会となっているが、地域各団体と学校からの事業・行事等の呼びかけ、依頼の場ともなっている。

なお、会議の構成メンバーは、小・中学校教員（教務主任や学社連携担当）、高校教員、小中高PTA会長、保育園・幼稚園の代表、民生委員、主任児童委員、子ども会・育成会長、自治公民館長、家庭教育オピニオンリーダー、地域の交番所長、公民館長となっている。

2 「公民館事業」

〈あいさつ運動啓発ポスターコンクール〉

小・中学校の児童・生徒によるポスターコンクールを実施し、優秀作品を掲載した年間カレンダーを作成して、管内全戸に配布している。毎年カレンダーが届くことを楽しみにしている家庭も多い。なお、「あいさつ運動」は、平成25年度協働のまちづくり事業として位置付けられ、あいさつ看板設置事業も厚崎地区車座談議運営委員会が主体となって、自治会・子ども会により実施されている事業である。

〈ふれあい交流会（平日開催）〉

地域の高齢者と地区内小学校4年生、幼稚園年長、中学校生徒会、高校生ボランティア部等との異年齢集団交流の機会となっており、体験活動等をとおしての心の交流であり、情操教育や地域に愛着をもつ子どもの育成にもつながっている。

成果と課題

- ・年度当初に、地区の様々な立場の方と顔を合わせてスタートできるため、コミュニケーションを通してネットワークづくりができる。
- ・公民館からの事業活動の呼びかけ（依頼）の場とすることができる。
- ・会議開催通知に、「地域・学校等それぞれの現在課題となっている内容を持ち寄ること」を依頼しているため、会議では地域課題や学校課題の一端をお互いに把握することができる。
- ・会議に参加する全ての地域団体・学校が、課題等を準備してくれるわけではないため、会議を活性化させるところまではいかず、会議の持ち方については課題がある。
- ・予算的措置やマンパワーの不足により、事業は踏襲となり、新しいことが進められない状況にある。

足利市学社連携連絡会議の取組

足利市の特徴

足利市には17の公民館がある。(表1)市内11の中学校、22の小学校数と比較しても公民館数が多いことが分かる。しかも公民館と学校が隣接しているところが多い。各公民館にいる学級講座担当者は、足利市学社連携連絡会議の担当者にもなっている。「公民館だより」に学校の行事や人事異動が掲載されるなど、公民館(地域)と学校のつながりが強い。

(表1) 足利市内の学校と公民館

ブロック	中学校	小学校	高校・特別支援学校	公民館
A	協栄中学校 愛宕台中学校	梁田小学校 久野小学校 筑波小学校 御厨小学校	足利南高等学校	梁田公民館 久野公民館 筑波公民館 御厨公民館
B	坂西中学校	坂西北小学校 葉鹿小学校 小俣小学校		三和公民館 葉鹿公民館 小俣公民館
C	第一中学校 第二中学校	けやき小学校 青葉小学校	足利女子高等学校	織姫公民館
D	第三中学校	東山小学校 桜小学校	白鷗大足利高等学校	助戸公民館
E	毛野中学校 富田中学校	毛野小学校 毛野南小学校 富田小学校	県立足利特別支援学校	毛野公民館 富田公民館
F	北中学校	北郷小学校 大月小学校 名草小学校	県立足利中央特別支援学校	北郷公民館 名草公民館
G	山辺中学校	山辺小学校 南小学校 矢場川小学校		山辺公民館 矢場川公民館
H	西中学校	三重小学校 山前小学校		三重公民館 山前公民館
合計	11	22	5	17

足利市学社連携連絡会議の経緯

昭和62、63年の資料に「学社連携会議研究」の記述があり、そこから継続して行われてきたのではないかとの一説がある。足利市の教育目標の具現化にむけて、先進的に学社連携に取り組んできたことが分かる。学社連携が、全国的に注目された平成7年に、市内の公民館職員、小・中学校代表教員が一堂に会して、学社連携とは何か、自分たちのところでは何ができるかを考える会議を行った。このときに市内を8ブロック(主に中学校区)に分け、公民館を中心に学社連携会議をブロックごとに行うようになった。

足利市学社連携連絡会議の内容

主催は、栃木県教育委員会安足教育事務所と足利市教育委員会である。各ブロックごとに、公民館を中心に会議を開催している。趣旨は『学社連携・融合の視点に立ち、学校教育と社会教育が相互に補完し合い、より高い学習効果を生み出すための基盤づくりを進める』である。

会議の参加対象は小・中・高・特別支援学校教職員、社会教育関係職員等となっており、年に2回開催している。1回目は5月～7月までに各ブロックで決定し、2回目はふれあい学習ネットワークと合同で実施している。

学社連携連絡会議を単独で行っているのは、B・Cブロック（表1）である。Bブロックは葉鹿公民館、Cブロックは織姫公民館がそれぞれ主体となっている。他のブロックは、社会教育振興委員会で合同で行っている（6月以降）。ここでは、足利市学社連携連絡会議を単独で行っている2ブロックのうち、葉鹿公民館の取組について簡単に説明する。

足利市学社連携連絡会議（坂西地区の例）

平成25年度は葉鹿公民館の会議室を会場に、「平成25年度第1回坂西地区学社連携会議」という名称で、4月5日（金）に行われた。新年度が始まり慌ただしい時期であろうと考えられるが、この坂西地区では取組が定着化し、担当公民館職員が4年目で会議に慣れているため、会議はスムーズに行われている。時間は1時間弱として、要点を絞って行っていることも注目すべき点である。そのため会議は、足利市教育委員会生涯学習課職員が司会を行わないで、公民館職員が進行している。

内容については、その年の行事や事業の情報交換、広報や募集等の協力依頼と連携できる事業の話合いなどである。この会には教務主任が多く参加するため、教員同士の顔合わせの場としても役に立っている。公民館と学校の関係ができていることで、場所の貸し借りや公民館からの講座のお知らせがスムーズに行われている。また、公民館職員と教員の関係が築かれている一例として、公民館でそば打ちの講座を企画していると、そば打ちが得意な教員がいると情報提供があり、実際に教員が講師になったことがある。また、公民館で苦勞している点として「人集め」、学校の支障となっている「予算の確保」が挙げられるが、お互いが補充しあって講座や行事を行っている。具体的には「坂西中合同講演会」がある。葉鹿・小俣・三和公民館と一緒に開催することが位置づけられており、学校に意向を聞いて公民館が講師選定をして、予算を出し、学校は保護者を中心に人を集めている。

成果と課題

- 学社連携連絡会議により、互いに顔の見える関係づくりができた結果、事業を行う際、企画の段階から公民館が学校に入り、公民館と学校が連携しやすくなった。
- 学校ボランティア出前市等を行ったことで、地域の人材を教育活動に生かしている学校もある。
- 学校や公民館が主体になって、学社連携連絡会議を開催していないブロックについては、市生涯学習課が中心となり、他のブロックの情報提供や児童・生徒や教職員への効果を公民館や学校に伝え、今後、主体的に開催できるように計画している。